

# 浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

## 「ある卒業式でのスピーチ」

慈光照護のもと、門信徒の皆様にはますます  
すご清祥にお念仏ご相続のことと慶賀に存  
じます。また冬がやってきました。寒いのは  
苦手です。いかがお過ごしでしょうか。



ブ・ジョブズという人を知っている方はそう  
多くないと思います。今回はこの人のこと  
を書きたいと思います。彼は禅に傾倒した  
仏教徒でもあり、若い頃に数ヶ月間インド放  
浪の旅をしています。最近大きな2度の手  
術を乗り越えて、ますます精神的に活躍して

さて、皆様はアメリ

カの会社アップルを  
ご存知でしょうか。

最近携帯電話など  
でも日本市場を賑わ  
していますので、ご存  
知の方も多いと思っ  
ます。しかし、この会  
社のCEO（最高経営  
責任者）のステイー

いる世界でもたいへん有名な経営者です。

この人が、5年前にスタンフォード大学の卒  
業式に来賓に呼ばれたときのスピーチが本  
当に心に残るものです。3つのパートに分  
かれています。とても紙面では全文をご紹  
介することができません。3つめのパート  
だけご紹介いたします。すべてをお聞きに  
なりたいたときは、インターネットのユー  
チューブという動画サイトで『ステイーブ  
スピーチ』などと検索すれば、日本語字幕の  
ついたものを見ることが出来ます。それで  
はどうぞ。

3つめの話は死についてです。

17歳のときに、こんな言葉に出会いまし  
た。

「毎日を人生最後の日であるかのように生き  
よう。いつか本当にそうなる日が来る。」

その言葉に感銘を受けて以来33年、私は毎  
朝、鏡の中の自分に問いかけています。「今  
日で死ぬとしたら、今日は本当にすべきこと  
をするか？」

その答えが何日も「ノー」のままなら、何  
かを変える必要があると気づきます。

「すぐに死ぬ」という覚悟があれば、人生で  
重要な決断をするときに、大きな自信となり  
ます。なぜなら、ほぼ全てのものは、周囲か  
らの期待、プライド、失敗や恥をかくことへ

の恐怖など、そういったものは、死に直面す  
ると消え去るからです。そこに残るのは、本  
当に必要なものだけです。死を覚悟して生  
きていければ、「何かを失う気がする」という心  
配をせずにすみませう。あなたは始めから裸  
なんです。素直に自分の心に従えばいいん  
ですよ。

私は1年前、癌を宣告されました。朝の7  
時半に受けたスキャンで、膵臓にはつきりと  
腫瘍が写っていました。私は「膵臓」が何な  
のかも知りませんでした。医者からは治療  
不可能なタイプの腫瘍だと聞かされ、3  
6ヶ月の余命を宣告されました。医者は「家  
に帰って、やり残したことを片づけろ」とア  
ドバイスしました。つまり「死ぬ準備をせ  
よ」という意味です。つまり「子供たちに全  
てを伝えろ」ということです。今後10年で言  
うつもりだったことを、数ヶ月のうちに言え  
うということ。つまり家族に負担が残ら  
ぬよう、全てにケリをつけておけということ  
です。つまり「さよならを言っておけ」とい  
うことです。

その宣告を抱えて1日過ぎました。そ  
の日の夜、カメラを飲む検査を受けました。  
腸から膵臓へ針を通し、腫瘍細胞を採取する  
検査です。私は鎮静剤が効いていたのです  
が、そばにいた妻の話によると、腫瘍を検査  
した医師たちが叫び出したそうです。その

腫瘍が手術で治せる非常に希なケースだからでした。私は手術を受け、おかげで今は元気です。これが私の最も死に近づいた経験です。今後数十年は勘弁ですね。

それを通して、死がただの概念だった頃より、確信を持つて言えることがあります。

「誰も死にたくはない」

「天国に行きたい人でもそのために死のうとはしない」

「しかし死は全ての人の終着点であり、誰も逃れたことはないし、今後もそうあるべきだ」

「なぜなら、死は生命の最大の発明なのだから」

「死は古き者を消し去り、新しき者への道をつくる」

ここでの「新しき者」は君たちです。しかし、そう遠くないうちに……君たちも「古き者」となり、消えてゆきます。大げさですみません。しかし、紛れもない事実です。あなたの時間は限られています。無駄に他人の人生を生きないこと。ドグマに囚われないでください。それは他人の考え方につき合った結果に過ぎません。他人の雑音で、心の声がかき消されないようにしてください。そして最も大事なものは、自分の直感に従う勇氣を持つことです。直感とは、あなたの本当

に求めることをわかっているものです。それ以外は二の次です。

スピーチは以上です。いかがでしたか？日本なら社会に羽ばたく学生たちの栄えある卒業式に『死』の話をするなんて、なんて奴だ！縁起でもない！と怒り出す人がいます。でも、ここで述べられていることのひとつひとつが、私たちがわかっているように実は全然わかっていない、因果の道理を分かりやすく説明してくれているような気がするのです。人生は苦であるとお釈迦様はおっしゃいました。生老病死の四苦も、老病死から逃れる方法は生まれてこないこと以外にはありません。

**此あれば彼あり**

**此なければ彼なし**

**此生じれば彼生じ**

**此滅すれば彼滅する**

私たちの時間は限られています。その大切な時間を、お金、土地、家、人間、名誉、地位、その他もろもろの無常なものにとらわれ、抛り所としてああでもないこうでもない文句を言いながら暮らしているのが誰であろうこの私だったのです。

そのような生き方ではなく、無常でないもの（常住なるもの）をあて頼りに生きなければなりません。それが、どんなことがあっても私を捨てないとお誓いくださった阿弥陀様のお喚び声に応えていく生き方です。親鸞聖人は阿弥陀様のみ教えを南無阿弥陀

仏の六字として受けとめて、私たちに伝えてくださったのです。摂取不捨（おさめとつて必ず捨てることがない）という働きを、私たちはアミダといただくのです。私はいつ病を得て死にゆくのかわからない無常の身でありながら、わずか数10年のいのちがすべてではない、もつともつと大きな生命の中、如来様のお慈悲の中に生かされていたことをお互いによろこばせていただくような毎日でありたいものです。どうか朝夕は家族全員がお仏壇の阿弥陀様に手を合わせてください。悲しいことも、苦しいことも、つらいことも、もちろん楽しいことも、阿弥陀様と一緒にです。

**「御正忌のご案内」**

日	14時〜	19時〜
15日	大逮夜	初夜
(水)	正信偈	十二札
	法話二席	御伝鈔拜読
		法話一席

福井市教応寺住職

ご法話

本願寺布教使

奥田 順誓師です。

☆温かいおぜんざいが、今年も昼夜ともにふるまわれます。ご家族そろってお参りください。心よりお待ちしております。